

企画展示「楽器は語る」における マルチメディアコンテンツについて

Multimedia Content for a Special Exhibition "Musical Instruments Tell Stories"

鈴木卓治

SUZUKI Takuzi

①はじめに

②企画展示「楽器は語る」について

③作成したコンテンツ

④携帯端末向け展示情報サービス実験

⑤おわりに

【論文要旨】

本稿では、2012年夏に国立歴史民俗博物館（歴博）が開催した企画展示「楽器は語る」のため開発したマルチメディアコンテンツについて、展示に組込む形で提供した5種類のコンテンツの内容と展示との関連を交えて解説する。また、同時に実施した、来館者が持参したスマートフォンやタブレット端末等のWi-Fi機能を備えた携帯端末向けに情報コンテンツを配信する実験について、来館者アンケートとコンテンツへのアクセスログから、実験に参加した来館者の傾向を読み取ることを試みたので合わせて報告する。

来館者へのアンケート調査からは、若い女性の携帯端末への関心がとくに高いこと、Wi-Fiの設定がうまくできない利用者が想像以上に多いこと、いったんうまくWi-Fiが設定できた利用者は支障なくコンテンツにアクセスできること、がわかった。また、WWWアクセスログの分析は、コンテンツが来館者に理解されたかどうかの評価よりも、たとえば、重要なコンテンツが優先してアクセスされるように利用者インターフェイスをうまく設計できたか、の評価に有効であることがわかった。

来館者が持参した情報端末を展示情報サービス端末として利用する技術は、とくに人員面や資金面の体力に劣る中小規模の博物館において有望である。今後の課題として、音声ガイドや動画ガイドなど、ボタンを押してコンテンツを呼び出すような簡便なものについて、Webコンテンツの自動生成ツールの開発と提供が挙げられる。

【キーワード】博物館情報サービス、マルチメディアコンテンツ、雅楽、日本の古楽器、来館者持参の携帯Wi-Fi端末、スマートフォン、タブレット端末